

レズビアン
同性を好きになる女性



ゲイ
同性を好きになる男性



バイセクシュアル
異性も同性も好きになる人



Lesbian

Gay

Bisexual

特集

性は十人十色 性の多様性を考える

+

プラス
他の多様な性のあり方

Transgender

トランスジェンダー
身体の性と心の性が異なる人



クエスチョニング
心の性が男か女か分からない人

Questioning



「LGBTQ+」という、性的少数者を呼び表す言葉がテレビや雑誌などで使用される機会が増え、性のあり方は「男」と「女」の2つだけではないと、世界の認識が変わってきています。今回の特集では、LGBTQ+の方の話を通し、誰もが自分らしく生きるための性のあり方を考えます。

問合せ 市民協働推進課(☎51・2188)

HP 76843

性の4つの要素 (図1)

身体の性

身体の特徴から判断される戸籍上の性

心の性

自分の性をどのように感じているか

好きになる性

恋愛や性愛の感情がどんな性に向くか

表現する性

言葉遣いや振る舞い、服装などの見かけ



性は「男」と「女」だけではない

これまで、性は性器などをはじめとした身体の特徴から判断される戸籍上の性、「男」と「女」の2つという考え方が一般的でした。しかし、現在では「身体の性」や「心の性」などの4つの要素が組み合わせり、性が形作られるとされています(図1)。

4つの要素の組み合わせり方は一人ひとりと異なり、多彩で豊かな性を生み出します。

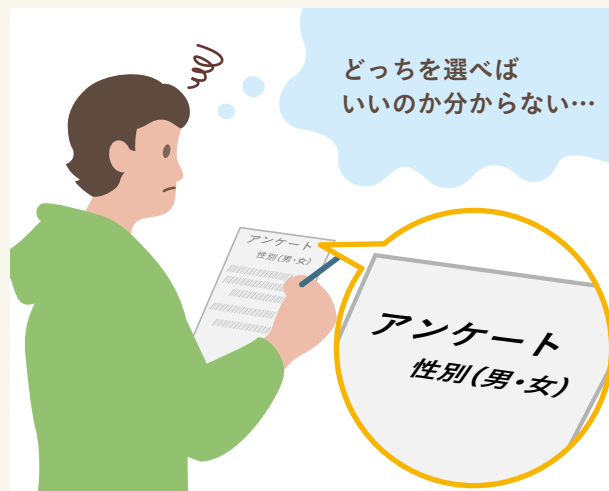
このように、性は十人十色であり、「男」と「女」の2つのみに当てはめて考えることはできません。

LGBTQ+の方に聞いた「気になる身近なこんなこと」

無意識の性差別につながる言動がないか考えてみましょう



職場などで、心の性や表現する性と異なる服装を強いられる



身体の性と心の性の、どちらを答えたらいいのかわからない



性別分けされたトイレに入りにくいのでバリアフリートイレを使用していると、げげな目で見られる



好きになる性が異性だという前提で質問される

見えないLGBTQ+

「LGBTQ+の人は周りにいないから自分には関係のない話だ」と思っていないか。昨年12月に実施された調査(※1)によると、およそ11人に1人がLGBTQ+の方だという結果が出ています。

この結果からは、学校や職場など身近な場所にもLGBTQ+の方がいると考えられ、想像以上に身近な存在であることがわかります。しかし一方では、同じ調査で約65%の人が「身近にLGBTQ+の人がいない」と回答するなど、実態と認識との間にズレが生じています。

「いない」は思い込み

このズレの原因は、「LGBTQ+だと打ち明けている人が身近にいない」状況を、「身近にLGBTQ+の人がいない」と認識していることです。LGBTQ+の方は外見だけでは分からないことも多く、当事者が打ち明けない限りその存在に気付かず、「いない」と思い込んでしまうのです。

多様な性のあり方を認め合う

例えば、上のイラストのような場面で、LGBTQ+の方は違和感や否定感を覚えることがあります。性の多様性を理解し、相手の性に配慮した言動を心がけ、無意識の性差別を無くしましょう。

(※1) 電通ダイバーシティラボ「LGBTQ+調査2020」

どんな性のあり方でも 幸せになれる

竹原 楓さん(29歳)

26歳まで、身体の性:女性 心の性:男性
現在は、身体の性・心の性ともに男性

LGBTQ+の方を支援するNPO法人に所属し、講演活動などを行っている豊橋市出身の竹原さんに、自身の体験や思いなどを伺いました。

性のあり方に悩んだ学生時代

小学校高学年のときに、身体の性と心の性との間に違和感があることに気付きました。体の成長とともに胸が膨らみ生理が始まるなど、自分の体に起こる変化に戸惑いました。中学生になり、制服は仕方なく着ていましたが、スカートをはくのが嫌で、ジャージを着て登下校していました。高校生になると男性用の下着を身に着けるようになりましたが、先生から「なんでそんな下着をはいているの」と言われるなど、窮屈な環境が嫌になり、学校を辞めたいと親とぶつかることもありました。

この頃の私は、違和感や戸惑いの原因



が分かっています。自分でしたが、トランスジェンダーの方と話したことをきっかけに、「私はこの人と同じだ、私はトランスジェンダーなんだ」と、自分の性のあり方を理解しました。それまで感じていた違和感などの原因は分かりましたが、自分のことを「普通ではない」「病気になるだ」と思い込み、自分で自分を追い込んでしまいました。

性のあり方を

受け入れられたことが支えに

しかし、友人たちに自分がトランスジェンダーであることを伝えると、「そんな気がしてた」「別に気にならないよ、楓は楓だから」と受け入れてくれました。その後、家族に打ち明けた時も「分かっていたよ」と受け入れてもらえ、周りに自分のことを「普通ではない」と言う人はいませんでした。私は、自分自身が一番自分の性のあり方について偏見を持ってい

たことに気付き、自分の性のあり方が周囲に受け入れられたことで、大きな勇気が湧きました。

高校を卒業してから働き始めた飲食店で意を決し、自分がトランスジェンダーであることを打ち明けたところ、快く受け入れてもらえ、不自由なく働くことができました。そこで目指していた料理長を勤め上げたことも大きな自信につながりました。

LGBTQ+は身近な存在

私自身、面と向かって「LGBTQ+の人には会ったことがない」と言われたことがあるほど、その人がLGBTQ+であることは見た目では分かりません。しかし、皆さんの身近にも私のようなLGBTQ+の方がいることをぜひ、知って欲しいと思います。自分の性のあり方を周囲に受け入れてもらえることは、大きな心の支えになるはずです。

LGBTQ+であっても できないことはない

私は今、本当に幸せです。

幸せの形はいろいろですが、私は、周囲にありのままの自分を受け入れてもらえたことや、自分自身が持っていた偏見を無

くすことができたこと、好きなことに熱中できたことで幸せを掴むことができました。LGBTQ+であっても、何かに夢中になり、本気で取り組み、できないことはないありません。性のあり方に悩み、やりたいことをできないでいる方や夢を諦めてしまっている方が少しでも減り、自分らしく生きることができるようになることを願います。

LGBTQ+の方の面接相談を受け付けています

性のあり方に関する悩みを、専門の相談員に相談できます。

とき 月～日曜日、祝日 ①10:00～15:00 ②15:00～20:00

ところ 市内公共施設

対象 市内在住のLGBTQ+の方や家族、教育関係者など

その他 ①は希望日の1か月前までに、②は2週間前までに予約が必要。申込方法など詳細はホームページ参照

申込み 電話で市民協働推進課(☎51・2188) ※ホームページからも申し込み可

私たち、 パートナーシップ制度で 宣誓しました

Aさん(34歳) 身体の性:男性 心の性:男性

Bさん(23歳) 身体の性:男性 心の性:女性

豊橋市では、カップルの一方または双方が性的少数者である2人が、人生のパートナーとなることを宣誓したことを公に証明する「豊橋市パートナーシップ制度」を開始しました。今回は、1組目のカップルとして宣誓したお2人にお話を伺いました。

— 宣誓しようと思ったきっかけ

Aさん 他の自治体でパートナーシップ制度が導入されていることは知っていましたが、知人から豊橋市でもパートナーシップ制度が始まったと聞いたときは驚きました。以前からBさんとの正式な結婚への条件が整うまで、パートナーとしての形が欲しいと考えていたので、すぐにBさんに話をしました。

Bさん Aさんから「宣誓しよう」と言われたときは、とても嬉しかったです。この制度は、結婚したくてもできない今の私たちができる最大限のことだと思い、宣誓することを決めました。

— 宣誓後の、自身や周囲の変化

Bさん 受領証を受け取り、恋人以上の関係になれたと実感しました。私たちの関係を理解してくれている友人や職場の人に宣誓したことを話すと、「おめでとう」と言ってくれました。宣誓したことで、周りの方が私の性のあり方を受け入れてくれ、より女性として接してくれるようになりました。受領証カードはいつも大切に持ち歩いています。

— お2人のこれから

Bさん 私たちの今後の目標は、正式に結婚することです。今回宣誓したことで、2人で一緒に目標に向かっていけるとい

う安心感が生まれました。

Aさん パートナーとして認められたことで、家庭を持ったという責任感が芽生えています。2人の仲も、より深まったと感じています。新たな一歩を踏み出し、パートナーとして一緒に人生を歩んでいきたいと思っています。

豊橋市パートナーシップ制度の宣誓を受け付けています

対象 一方または双方が性的少数者で、次の全てを満たす2人
①満20歳以上 ②宣誓者のうち少なくとも1人が豊橋市民、または豊橋市に転入を予定している ③配偶者がいない ④宣誓者以外の方とパートナーシップの関係にない ⑤宣誓者同士が近親者でない

その他 宣誓は事前予約が必要。必要書類など詳細はホームページ参照

問合せ 市民協働推進課(☎51・2188)

HP 83300



近年、有名なスポーツ選手や歌手が、自分の性のあり方を公に打ち明けるなど、性のあり方についての考え方は大きく変わりつつあります。男や女、LGBTQ+に当てはめることなく、「性はどんなあり方でもいい」「性のありかたを決めなくてもいい」という考え方も聞かれるようになりました。性は十人十色。一人ひとりが違う性のあり方を持っています。誰もが自分らしく生きるために、性の多様性を認め合い、お互いに尊重し合える社会を作っていきましょう。